学力向上に効果のある取組事例

由布市立由布川小学校

⑦生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

取組の具体①

〇課題解決（問題解決）のための対話の基礎的能力の定着

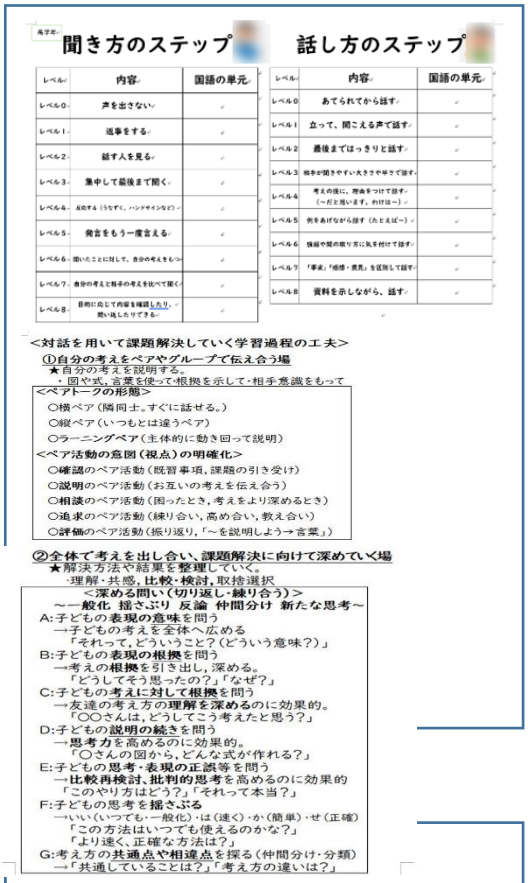
対話のステップ表（低・中・高）の活用

①国語の授業（話す・聞く）で技術を教え、練習させる。
②授業の対話活動の際に身に付けさせたい項目を提示し、意識して話すように促す。
③国語以外の教科でも使ってみる。

※児童は毎月1回、自分のステップ表を確認し、できていること・できていないことを確認し、次の目標を決める。

目的ごとの対話の工夫

対話の相手・・・隣ペア、前後ペア、ラーニングペア
班グループ、ラーニンググループ
対話の目的・・・確認のため
同じ考えの人と練り合いのため
違う考えの人との交流
効果の共有・・・考えを「広める」、「深める」とは何か、どんな良さがあるかを児童と共有し振り返りにつなげる。



聞き方のステップ

レベル	内容	国語の単元
レベル0	声を出さない	
レベル1	返事をする	
レベル2	話す人を見る	
レベル3	集中して最後まで聞く	
レベル4	反応する（うなずく、ハンドサインなど）	
レベル5	発言をもう一度言える	
レベル6	聞いたことに対して、自分の考えをもつ	
レベル7	自分の考えと相手の考えを比べて聞く	
レベル8	目的に応じて内容を確認したり、問い返したりできる	

話し方のステップ

レベル	内容	国語の単元
レベル0	あてられてから話す	
レベル1	立って、聞こえる声で話す	
レベル2	最後まではっきりと話す	
レベル3	相手が聞きやすい大きさや早さで話す	
レベル4	考えの後に、理由をつけて話す（～だと思います。わけは～）	
レベル5	例をあげながら話す（たとえば～）	
レベル6	接続や間の取り方に気を付けて話す	
レベル7	「事実」「感想・意見」を区別して話す	
レベル8	資料を示しながら、話す	

<対話を用いて課題解決していく学習過程の工夫>

①自分の考えをペアやグループで伝え合う場
★自分の考えを説明する。
・図や式，言葉を使って根拠を示して・相手意識をもって

<ペアトークの形態>
○横ペア（隣同士。すぐに話せる。）
○縦ペア（いつもとは違うペア）
○ラーニングペア（主体的に動き回って説明）

<ペア活動の意図（視点）の明確化>
○確認のペア活動（既習事項，課題の引き受け）
○説明のペア活動（お互いの考えを伝え合う）
○相談のペア活動（困ったとき，考えをより深めるとき）
○追求のペア活動（練り合い，高め合い，教え合い）
○評価のペア活動（振り返り，「～を説明しよう→言葉」）

②全体で考えを出し合い、課題解決に向けて深めていく場
★解決方法や結果を整理していく。
・理解・共感，比較・検討，取捨選択

<深める問い（切り返し・練り合う）>
～一般化 揺さぶり 反論 仲間分け 新たな思考～

A:子どもの**表現の意味**を問う
→子どもの考えを全体へ広める
「それって，どういうこと？（どういう意味？）」
B:子どもの**表現の根拠**を問う
→考えの**根拠**を引き出し，深める。
「どうしてそう思ったの？」「なぜ？」
C:子どもの**考えに対して根拠**を問う
→友達の考え方の**理解を深める**のに効果的。
「○○さんは，どうしてこう考えたと思う？」
D:子どもの**説明の続き**を問う
→**思考力**を高めるのに効果的。
「○さんの図から，どんな式が作れる？」
E:子どもの**思考・表現の正誤**等を問う
→**比較再検討，批判的思考**を高めるのに効果的
「このやり方はどう？」「それって本当？」
F:子どもの思考を**揺さぶる**
→いい（いつでも・一般化）・は（速く）・か（簡単）・せ（正確）
「この方法はいつでも使えるのかな？」
「より速く，正確な方法は？」
G:考え方の**共通点や相違点**を探る（仲間分け・分類）
→「共通していることは？」「考え方の違いは？」

取組の具体②

〇その他の工夫、取り組み

生徒機能の3機能を意識できる土壌づくり

・月2回の人間関係づくりプログラム（ゆーふータイム）
→安心して過ごせる集団へ
→自分の意見を誰とでも交流できる児童へ

教科担任制（専科）

・国語・書写・理科・家庭科・図書の専科教諭（R6年度）と学年での教科担任制の導入
→1時間ごとの切り替えで気持ちリフレッシュ
→専門性のある教諭による授業で興味・関心↑
全国・全県の調査項目「教科が好きですか」「教科がわかりますか」で肯定的回答をしている児童が大幅に増えた。
※今年度（R7年度）は体育専科教諭も配置されている

地域ボランティアの活用（ミシン・防災学習・読み聞かせ）

・家庭科や社会、総合的な学習の時間など地域の方々が積極的に関わってくれている。